

## 静岡空港 那覇路線の維持に関する要望

### 発言概要

静岡空港那覇路線(ANA)の撤退の動きについて、強い危機感を持ち要望する。本路線は単なる観光路線ではなく、帰省、修学旅行、高齢者の移動、地域住民の生活移動を支える基幹路線である。特に県西部地域からは他空港へのアクセス負担が大きく、実質的な代替手段が十分にあるとは言えない。那覇直行便の消失は、県民の移動利便性低下に直結し、静岡空港の存在意義そのものを弱める事態だと考える。航空会社の経営判断が厳しいことは理解しているが、地方空港の維持は市場原理だけで完結する問題ではなく、県の交通政策・観光政策・地域振興政策の根幹に関わる公共的課題である。採算のみを理由に基幹路線が失われる状況を看過すべきではないと考える。

県として、撤退見合わせに向けた航空会社との継続協議、期間限定または条件付き運航を含む支援策、及び利用促進策と組み合わせた実効性ある支援措置を具体的に検討・実行することを強く要望する。本件は単なる一企業の路線判断ではなく、静岡県の交通インフラの方向性を示す重要な事案である。県として主体的な役割を果たすことを強く求める。

### 回答概要

ANA那覇線の10月からの運休発表については、御意見者様をはじめ、日頃から帰省や修学旅行等で御利用いただいている県民の皆様には御心配をおかけしております。

県では、航空会社はもとより、官民一体の富士山静岡空港利用促進協議会や、空港の運営権者である富士山静岡空港株式会社のほか、県内及び就航先の旅行会社や関係団体の皆様と連携し、新たな沖縄の観光資源を巡るツアーの造成や、沖縄での修学旅行における新たな学習プログラムの提案など、様々な利用促進の取組を行ってきております。

こうした取組の結果、那覇線は、今年度に入り、単月の過去最高利用者数を記録するなど好調であります。

一方、全国的に、国内航空を取り巻く環境は大きく変動しており、物価高騰や円安による費用の増大、コロナ禍を契機にオンライン会議等が日常化したことによるビジネス旅客等の減少などを背景に、国内線を運航する航空会社においては、構造的に利益確保が困難な状況であります。

今回のANAの判断は、こうした経営上の理由とのものであり、現状ではANAとの運休見合わせの協議は困難であると考えます。

しかしながら、那覇線は富士山静岡空港の航空ネットワークにおいて重要な路線であることから、その他の航空会社に対し当該路線の好調な利用実績などを提示し、期間限定の運航も含め、働きかけを行ってまいります。